

東京農業大学稲花小学校

学校だより【12月25日】第36号



学級閉鎖

1年1組のインフルエンザ罹患児童数が7名を超えたことから、学校医との相談を行い、12月24日(火)から5日間の学級閉鎖を行いました。学校内での感染拡大を防ぎ、子どもたちの健康を守るための措置です。保護者向けには「在校生メニュー」を利用して別途詳細を案内し、また「臨時ほけんだより 12月23日」も発信しました。

なお、インフルエンザだけでなく、その他の理由も含めて、2学期終業式日の12月25日(水)に欠席となった場合には、保護者に成績証「みのり」の受け取りをお願いしました。農大稲花小学校でははじめての学級閉鎖です。

理由は不明ですが、1年2組は欠席者がほとんどありません。とはいえ、学級閉鎖の初日から、半数の児童しか登校しない小学校となり、なんだか静かで寂しくなったような気がしました。

バイオプラスチックって？

海を汚すマイクロプラスチックなどが話題になっています。プラスチックのストローを紙製にするコーヒーショップもでてきました。そんな中、東京農業大学国際農業開発学科の入江満美准教授のご紹介、そして一般社団法人中部SDGs推進センター副代表理事の百瀬様に仲介の労をとっていただき、リスパック株式会社様から、バイオプラスチックの器をご提供いただきました。このバイオプラスチックは、トウモロコシを原料にした植物性で、土の中の微生物によって分解される性質をもっています。触った感じや見た目はプラスチックと変わらないのに、不思議ですね。

実験の仕方については、これも「在校生メニュー」で資料を配布し、子どもたちの冬休みのお楽しみとなりました。寒い時期は微生物の活動が少ないので、分解速度はゆっくりですが、ゴミや環境について考える第一歩になるでしょう。



クリスマスのお楽しみ

12月24日(火)の英語の授業では、それぞれのクラスで、クリスマスに合わせた特別な

授業がありました。といっても、いつも英語の世界をたくさん経験している子どもたちです。あっという間に、英語でのクリスマスの世界に溶け込み、クリスマスカードを作ったり、クリスマスソングに合わせてダンスをしたり、と楽しい時間を過ごすことができました。英語で書かれたクリスマスカードは、教員にも届けられました。また、中休みにはサンタクロースに扮した英語講師が登場、子どもたちを喜ばせました。

2学期の終業式

12月25日(水)は2学期の終業式でした。1年1組が学級閉鎖のため、1年2組だけの終業式です。始業式と同様にテレビ放送で行うことを予定していましたが、1クラスだけとなれば、話は違います。教員全員と2組に集合しての終業式となりました。

2学期の子どもたちの成長を支えてくれた教職員に、子どもたちが声をそろえて「ありがとう」の言葉でお礼を言いました。校長からは、小学校の教育理念「冒険心の育成」を忘れずに、この冬休みには苦手なこと、難しいことにも挑戦するようにという講話がありました。そして、「東京農業大学稲花小学校の歌」を元気に歌い、冬休みを迎えました。

終業式の日のご給食は、イチゴのデザート付きのクリスマスメニュー！学級閉鎖をうらやましく思っていたかもしれない(?) 2組の子ども達も、意見が変わったかも(?) かもしれませんね。

午後には、雑巾を使って教室の清拭、机の整理なども行いました。雑巾を使って拭く、洗って絞る、干す、ほうきやちり取りを使う、ゴミを片付ける、バケツの水を片付けるなどは、基本的には各ご家庭で教育する事柄と考えています。しかし、普段から使う教室をきれいに整えることは、教育的な意義があります。今後も、教室だけでなく、トイレや廊下を含めて、みんなの小学校、あるいは公共物を大切に使用しようとする子どもを育ててまいります。「公共心」は、時代が変わっても、どこの国で活躍するようになっても、大切な資質です。



東京農業大学の正門に、早くも門松が飾られました。

皆さまにもお健やかに良いお年をお迎えください。

校長 夏秋 啓子